

Economic Indicators

発表日: 2024 年 11 月 22 日 (金)

日本経済指標: 来週の予測と今週の振り返り

～来週は「都区部 CPI」「鉱工業生産」などに注目～

(株)第一生命経済研究所 経済調査部
日本経済短期チーム (TEL: 03-5221-4525)

○来週 (11 月 25 日～11 月 29 日) の主な指標予測

	指 標 名	当社予測	市場予測	前回結果
11 月 25 日 (月)	14:00 9 月景気動向指数改訂値			
	CI 先行指数 (前月差)	—	—	+2.5pt
	CI 一致指数 (前月差)	—	—	+1.7pt
	14:30 10 月全国百貨店売上高			
	店舗数調整後 (前年比)	—	—	+2.3%
11 月 26 日 (火)	8:50 10 月企業向けサービス価格指数 (前年比)	+2.5%	—	+2.6%
11 月 29 日 (金)	8:30 11 月消費者物価指数 (都区部)			
	東京総合 (前年比)	+2.2%	+2.2%	+1.8%
	東京コア (前年比)	+2.0%	+2.1%	+1.8%
	8:30 10 月労働力調査 完全失業率	2.4%	2.5%	2.4%
	8:30 10 月一般職業紹介状況 有効求人倍率	1.24 倍	1.24 倍	1.24 倍
	8:30 9 月サービス産業動向調査			
	売上高 (前年比)	—	—	+2.3%
	8:50 10 月商業動態統計・速報			
	小売業販売額 (前年比)	+2.6%	—	+0.7%
	8:50 10 月鉱工業指数・速報			
	生産 (前月比)	+3.9%	+3.8%	+1.6%
	14:00 10 月住宅着工統計			
	新設住宅着工戸数 (前年比)	▲2.7%	▲2.0%	▲0.6%
	(季調値年率)	77.8 万戸	—	80.0 万戸
	14:00 10 月消費動向調査			
	消費者態度指数 (一般世帯、季調値)	—	—	36.2

(注) 市場予測は Bloomberg、日経 QUICK 調査をベースに作成

11 月都区部消費者物価指数 (生鮮食品除く総合) 当社予想: 前年比+2.0% 中央値: 同+2.1%

CPI コアは前年比+2.0%と、前月の+1.8%から上昇率が拡大すると予想する。電気・ガス代補助金が縮小されることでエネルギー価格のプラス寄与が拡大することが影響する見込み。コアコアについては大きな動きはないと予想する。

(シニアエグゼクティブエコノミスト: 新家 義貴)

10 月完全失業率/有効求人倍率 当社予想: 2.4%/1.24 倍 中央値: 2.5%/1.24 倍

企業の人手不足感は非常に強い状況が続いており、労働需給は引き締まっている。失業率は低水準での推移が続く見込み。

(シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴)

10月鉱工業生産指数 当社予想：前月比+3.9% 中央値：同+3.8%

10月の鉱工業生産を前月比+3.9%と、2か月連続の上昇を予想する。生産用機械の10月初旬時点の生産計画が非常に強いことから、生産指数全体を押し上げる見込み。もっとも、今月は一時的な押し上げに留まる可能性が高い。先行きは自動車生産の伸び悩みや電子デバイスの減速等を受け、鉱工業生産は引き続き停滞感の強い状況が見込まれる。

(副主任エコノミスト：大柴 千智)

○今週（11月18日～11月22日）の振り返り

	指 標 名	結果	市場予測	前回結果
11月18日 (月)	8:50 9月機械受注統計 船電除く民需(前月比)	▲0.7%	+2.1%	▲1.9%
11月20日 (水)	8:50 10月貿易統計 輸出金額(前年比) 輸入金額(前年比) 貿易収支(原数値、億円)	+3.1% +0.4% ▲4,612	+1.0% ▲0.3% ▲3,452	▲1.7% +2.1% ▲2,941
	14:00 10月コンビニエンスストア統計 既存店ベース売上高(前年比)	—	—	+0.7%
11月22日 (金)	8:30 10月消費者物価指数(全国) 全国総合(前年比) 全国コア(前年比)	+2.3% +2.3%	+2.3% +2.2%	+2.5% +2.4%
	8:30 9月毎月勤労統計・確報 名目賃金(前年比)	—	—	+2.8%

9月機械受注・船舶電力除く民需

9月の機械受注（船舶・電力を除く民需）は前月比▲1.9%と、3か月連続の減少となった。業種別には製造業が同▲0.0%、非製造業（船電除く）が同+1.5%となった。この結果、7-9月期のコア機械受注は前期比▲1.3%となった。電気機械等が前期比減少に転じた製造業が3四半期ぶりの減少となり、足を引っ張る形となった。コア機械受注は、1-3月期（同+4.4%）の増加をピークに2四半期連続の減少となり、減速感強い。また、同時に公表された内閣府見通しによれば、10-12月期は前期比+5.7%と持ち直しが予想される。もっとも、国内消費の弱まりや海外経済の減速による生産活動の下押しを受けて、このところのコア機械受注は計画対比で弱い動きが続いていることから、10-12月期は製造業、非製造業ともに下振れに注意が必要だろう。

- 詳細は、11/18 発表「機械受注統計調査(2024年9月)～製造業が足を引っ張り7-9月期は2四半期連続の減少～」
(<https://www.dlri.co.jp/report/macro/388199.html>)もご参照ください。

10月貿易統計・貿易収支額（原数値）

10月の貿易統計では、輸出金額が前年比+3.1%、輸入金額が同+0.4%となり、貿易収支は▲4,612億円の赤字となった。また、物価変動の影響を除いた実質輸出は前月比▲6.0%（9月：同+4.4%）と、5か月ぶりの減少となった（実質化と季節調整は第一生命経済研究所）。7-9月期を牽引した電気機器（半導体等電子部品など）や一般機械（半導体等製造装置など）が減少し、下押しとなった。先行きについても、これまで輸出を下支えしてきた半導体関連の減速する可能性が高い。これに加えて、米国、欧州、中国といった主要相手国の景気減速や自動車需要の一巡によって、実質輸出の下押し圧力は強い。輸出に力強い回復は期待しにくく、牽引役不在の中で停滞感の強い状況が続くだろう。

- 詳細は 11/21 発表「貿易統計(2024 年 10 月)～半導体関連輸出が減少～」

(<https://www.dlri.co.jp/report/macro/388363.html>) もご参照ください。

10月全国消費者物価指数（生鮮食品除く総合）

全国 CPI コアは前年比+2.3%と、前月の+2.4%から上昇率が縮小した。前年同時期に値上がりしていた電気・ガス代の裏が出たことで押し上げ寄与となり、2か月連続の上昇率縮小となった。一方、日銀版コア（生鮮食品及びエネルギーを除く総合）では、食料品価格の大幅値上げが実施されたことにより同+2.3%（9月：+2.1%）と、2ヵ月連続の上昇率拡大となっている。注目されていた10月の価格改定期の値上げについては、食料品については顕著な上昇がみられたものの、サービスについては期待されたほどの変化はみられなかった。いくつかの品目で値上げはみられ、サービス価格の前年比も上昇率がやや拡大しているが、広がりには欠ける印象だ。

- 詳細は 11/22 発表「消費者物価指数(全国・24 年 10 月)～食料品価格が急上昇。一部で期初の値上げも、広がりに欠ける～」(<https://www.dlri.co.jp/report/macro/388448.html>) もご参照ください。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

